

第13回日本臨床検査学教育学会学術大会を終えて

山口 博之*

はじめに

北海道大学学術交流会館にて第13回日本臨床検査学教育学会学術大会「多様性の創成：進化する臨床検査技師教育—教育と学びの真髄を探る—」を、8月17日(金)~19日(日)の3日間の日程で開催しました。3日間を通しての参加者数は、教員240名(学会員214名、非学会員26名)、学生が125名、日本臨床衛生検査技師会(日臨技)から5名、招待者10名の、計380名となりました。昨年の埼玉県立大学(松下会長)で開催された際の参加者数が650名を超えていましたので、今回の学会参加者は大幅に減少いたしました。一方、学会は、全ての会場で活発な質疑応答が行われ、盛会裡に終えることができました。参加していただきました会員校の教員ならびに学生さらに企業の皆様のご協力・ご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。以下、学会概要と今後の課題点などご報告させていただきます。

I. 学会概要

1日目は、まず「臨床検査技師教育課程の指定規則の改定に向けた動向」に関する緊急講演[坂本秀生先生(神戸常盤大学)]、「フィンランドの教育から学ぶ」[横澤宏一先生(北海道大学)]と「国臨教の取り組みと日本臨床検査学教育協議会との連携」[廣畑 聡(岡山大学)]に関する二つの教育講演、その後、「それぞれの主張、臨床検

査学教育の可能性を探る—短大・専門学校・大学(私立・国立)の果たす役割と連携そして企業ニーズ—と題してシンポジウム[山藤 賢先生(昭和医療技術専門学校)、高橋志達先生(ミヤリサン製薬株式会社)、永田浩三先生(名古屋大学)、伊藤昭三先生(新渡戸文化短期大学)、三村邦裕先生(千葉科学大学)]を行いました。その後、簡素な情報交換会をロビーで開催し、初日が無事終了。

2日目は、午前中に教員と学生による一般演題(101演題*内訳: 教員35題、大学院生22題、学生44題)、午後から、「大学教育とは何か」特別講演[名和豊春先生(北海道大学)]、「認知症検査における臨床検査技師の役割」教員研修会・学生向け講演会[浦上克哉先生(鳥取大学)]、「教育と研究の両立、ロールモデルから学ぶ」と題した二つの教育講演[石津明洋先生(北海道大学)、惠 淑萍先生(北海道大学)]、一般演題優秀賞受賞式を経て、分科会が開催されました。

最終日は、「医学教育学会共催シンポジウムPBL テュートリアル入門~学生役の体験とチューターの役割について~」[大槻真嗣先生(藤田保健衛生大学)]と題したシンポジウム2、「在宅医療と臨床検査」[西成田睦未先生(文京根津クリニック)]と題した教育講演、その後、クロージングトーク・閉会式[山口博之(北海道大学)]と、執り行われました。

*北海道大学保健科学研究院病態解析学分野 hiroyuki@med.hokudai.ac.jp



写真 学会風景

II. 今後の課題

今回、初めて本学会運営にあたり、地方開催の難しさを改めて痛感いたしました。昨年度に比べ参加者数が激減したことについては、大都市部開催と異なり旅費が嵩むので参加を躊躇してしまうのも地方開催の宿命ともいえますが、運営資金の集金方法など一層の工夫が必要かと思われまます。例えば、クラウドファンディングや参加者から寄付金を直接募っても良いかもしれません。また運営では、企画から事務処理までほぼ全てを担当校が賄う必要があり、あまりにも労力を要することに、スタッフ一同、疲弊いたしました。学会の継続性を担保するためにも、学会本部にプログラム企画調整委員会を設置するなど、役割を学会運営本部と分担することで、魅力的な学会を企画するためにどうするの

か、といった本質的な部分に、全力をより注げるような工夫も必要かと思ひます。

最 後 に

お盆明けのイレギュラーな時期にもかかわらず、参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。「私達は何をなすべきなのか」、今一度、臨床検査技師の教育機関が、それぞれの立場を超越し連携・協力することで生まれる次世代を見据えたより実り多い教育のあり方について、考える良い機会になったのではと思っています。来年度は、第14回日本臨床検査学教育学会が熊本保健科学大学の古閑公治先生のもと、熊本で開催されます。様々な工夫を散りばめたより深化した素晴らしい学会になるものと、今から楽しみでなりません。本学会の益々の発展と皆様のご多幸を祈願し、学会終了の報告と御

礼の挨拶とさせていただきます。

最後になりますがこの場をお借りしまして、この学会運営を裏方で強力に支えて下さいました、政氏伸夫准教授、加賀早苗准教授、岡田一範助教、大久保寅彦講師、櫻井俊宏講師、検査技術専攻の皆様そして東北・北海道支部幹事校

の皆様、さらに北海道大学事務本部との連携にご尽力いただきました齋藤健保健科学研究院長と松嶋敏幸事務課長ならびに保健学科事務職員の皆様、本学会との共催をご快諾いただきご講演を賜りました名和豊春総長に心より感謝いたします。